



ただら

第24号
(2025年1月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦

<http://oushimaned.main.jp>

E-mail: info@oushimaned.main.jp



北寺町が通行許可書を読み上げて出発 (写真・文森勝男さん提供)

城下町松江の風物詩「鑿(どう)行列」

松江鑿行列が10月20日に開催され、市内の中心部に勇壮な鑿の音色を響かせました。鑿行列は松江神社の例大祭に合わせ、松江開府を祝う祭として行われ、直径4尺(1.2m)から6尺(1.8m)の大太鼓「鑿」を乗せ、ちょうちんなどで飾った鑿宮(山車)を引き、笛やチャンガラと威勢のよい掛け声に合わせて鑿を打ち、市内の中心部を練り歩く伝統行事です。

14町内会と2団体の参加者1,600人が、松江城大手門前に集合、安全祈願などの出発式を行い、観衆への餅まきが行われ、出発式となります。出発の順番は7月に松江神社でくじ引きをして決まります。

もともと祭の起源は、平安時代から宮中で行われていた正月行事の「左義長(さぎっちょ)までさかのぼります。堀尾吉晴公によって開府された頃は「とんど」として正月に行われていました。大正4年、大正天皇即位の御大典のおり、各町が鑿の大きさを競い屋根付の屋台を造り、行列したのが今の鑿行列のはじまりと言われてます。

新年のご挨拶を申し上げます

役員一同

総理は石橋湛山から何を学んだ？

会長 竹下靖彦



皆さま明けましておめでとうございます。昨年も皆さまには大変お世話になりました。本年2025年度は、不肖私の7回目の辰年を何とか迎えることができました。これ

も良き友、良き仲間、良き家族のお蔭と感謝を致すところです。

思えば退職後になんとか放送大学に入学してから、早いもので実に17年となります。人生の中で、2番目に長い間係わりのある暮らしの場になったこととなります。

さて、新たな年を迎えるにあたって、昨年は私の人生で大きなドラマチックな出来事を経験するに至りました。それは衆議院選挙において与党が過半数割れを余儀なくされ、野党の賛同を得なければ法案通過ができない事態となったことで、この30年を経てやっと国会が本来の機能を果たすことが可能となったことである。

石破茂首相は11月29日の初の所信表明で、1957年2月の石橋湛山内閣の施政方針演説の一説を引用し「民主主義のあるべき姿とは、多様な国民の声を反映した各党派が、真摯に政策を協議し、より良い成案を得ることだ」としながら「前言撤回」「言行不一致」との整合性はいかに。

これまでの自民・公明はともに衆参両院で圧倒的多数による一強独裁体制の下で、歴代の首相は国民の声を全く無視し、トップダウンで閣議決定にて国会を形骸化し、国民に無力感を与えた。多様な国民の声を無視し独裁体制をして来たことをどうする弁明するのだろうか？

石橋湛山は、1956年4月18日号の『東洋経済新報』の社説で「近世の世相ただ事ならず」の中で、当時の浜口首相の右翼青年に撃たれて重傷を負い辞表を捧呈すべき時期について鋭い批判をしており「首相の任は政治家となる前と後で言論と言行一致し得ぬ場合にはその職を去るべし」。手のひら返しの石破首相が国民に聞こえの良いフレーズをいくら並べても、国民は共感しないのではなかろうか。

なお、石橋湛山は総理の職を離れた晩年、1966年1月1日発行の『中小企業』に寄せた一文で「憲法9条は生かせ—マッカーサーに無理やり押し付けたられたものだからと改憲を論ずるものもいるが、良いものは誰が押し付けたものであろうとも構わない。憲法において、国として軍備を持たず、国際紛争を武力で解決していくのではないと世界に宣言したことは、世界人類に向かって恒久平和を総国民が願っている。」という訴えでもあるので私は人類最高の宣言であると信じている。」(山口正『思想家としての石橋湛山』より引用)

人生の扉

所長 出口 顕



当然のことではあるが、新しい年とともにまた一つ年齢を重ね、古希も近い年になった。38年近く務めた島根大学を退職後放送大学島根学習センター所長として再就職したとき

は、若返ったような気になったものだが、確実に気力や体力が落ちてきており、根気が続かない。年賀状もそろそろ仕舞いにしたい。島根出身の歌手竹内マリアの「人生の扉」にあるように、信じられないくらい時が早く過ぎ去り、老いて弱くなっていくのを悲しいと思う自分がいる。

しかしその歌にあるように、人生は生きるに値するし、老いても輝かしいときはあるに違いない。アカデミックミステリーのコミック「マスターキートン」の中で、爆弾を仕掛けたテロリストがある老人に出会い、「これまで生きてきた人生でいつがいちばんよかったと思うか」と尋ねると、老人は今だと答え、やってきた孫にチョコレートを渡す、それを見てテロリストはテロ行為をやめようと爆弾を回収しようとするシーンがある。老いは嘆かわしいことではない。

そう思えるようになったのは、この老人のように、孫が生まれてからである。最初の孫息子は還暦の年に生まれ(だから同じ干支である)、彼が三歳になるまで一緒に暮らしていた。その生活の中で、人生のスタート地点に立ったばかりの孫と、そろそろ人生の終着にむかおうとする私と同じような境地にいて、私は孫にバトンタッチをしようとしているように感じた。

あるいは次のように言ったほうがよりその時の気持ちに近いかもしれない。つまり、ある大きな生命の流れがずっと続いていて、その流れの一結節点として、私という個がたまたま出現して存在し、やがてその私ももとの生命の流れの中に戻ろうとするとき、その流れのある位相に、新たな結節点として孫が出現した。私という生命体があり、それとは別に孫という生命体があるのではなく、私も孫もより大きな生命の流れの一現れに過ぎず、この生命の流れの中の近いところできつながら融合しているように感じたのである。だとすれば、他ならぬこの私というものに執着する必要はない。そう思えたとき、少し生きやすくなった気がする。

同窓会の皆さんの多くは私の人生の先輩である方が多く、何を今更と思われるかも知れないが、「人生の扉」を聞きながら、あらためてそう思ったのだった。

2024年度第1学期

学位記授与式が開催されました



2024年度第1学期学位記授与式が、9月29(日)

10:40分から、放送大学島根学習センター3階「第1講義室」にて開催された。

今学期は教養学部19名の方が学位を授与され、そのうち当日の授与式には名誉学生を含む9名の方が出席され、念願の学位記を出口所長より各自に授与された。

卒業生に対し田口所長より「名誉学生の称号を授与された方、複数コースで学位記を受けられた方、初めて学位記を受けられた方など多彩な方々が晴れの学位記を授与され、誠にめでとうございます。面接授業の中止や単位認定試験の実施形態の変更など、困難を乗り越えられてのご卒業であり、その努力と熱意に改めて敬意を表したい」と祝辞を述べられた。

来賓として招かれた竹下同窓会長は「本校は文科省、総務省所管で1985年開校され40周年を迎え、その規模、教育環境、研究水準、優れた教授陣を要する大学となり、10余万人の卒業生を世に送り出し、全国各地で活躍されています。大学で学ばれた見識と行動する力を地域、職場で発揮ください」。また、「卒業生の皆様には島根同窓会にぜひご入会下さい。」とお祝いの挨拶があった。



卒業生代表柳楽真佐実さんの挨拶は、「公衆衛生に従事する医師で、42歳で入

学しました。大学には様々な心理学系の科目が展開され、面接授業での心理学実験もあり心理と教育コースを選択し、我が家の本棚にある教科書は



私の足跡であり、今の私を支えてくれる礎です。11年間私の学びの伴奏者として時に手を引いて導き、時に背中を支えてくれて卒業することができました。2学期以降も学生生活を楽しみたい」と語られました。(文責：竹下)

2024年 第1学期

卒業を祝う会を開催



2024年9月29日(日)、学習センター4階第2講義室にて、2024年度第1学期卒業を祝う会を同窓会主催で開催しました。今回は卒業生5名の方に参加していただきました。

竹下会長より挨拶を兼ね、卒業生の皆さんに対し自身の経験を交え、「放送大学は、年配者が多く在学する珍しい大学で、総務省と文科省から補助金を受けて運営され、他の大学と比べて入学金や授業料が格安に安価です。大学を卒業されたことで、何か地域に貢献できることを探求していただきたい」と挨拶があった。

来賓の出口所長から「卒業することは努力と支える環境が求められます。皆さんが更なる挑戦を果たしてください。」と祝福の挨拶があり、藤嶋学友会長から「自らの専門外への挑戦をしてください」と挨拶があり、卒業生の皆様からそれぞれに感想を述べていただきました。

来賓の出口所長から「卒業することは努力と支える環境が求められます。皆さんが更なる挑戦を果たしてください。」と祝福の挨拶があり、藤嶋学友会長から「自らの専門外への挑戦をしてください」と挨拶があり、卒業生の皆様からそれぞれに感想を述べていただきました。



社会と産業コースを卒業された方は「卒業までに8年を

要しました。30歳で海外青年協力隊に参加をしてジャマイカで活動しました。60歳までにもう1回参加をしたくて、そのためにスキルを高めるため放送大学に入学しました。専門は測量や設計で、有機農業を海外で指導したい目標を持ち、派遣先はスペイン語圏のコロンビアで有機農業のテキスト作成要請が来ているため、センターの尾崎ゼミにて発表した資料をスペイン語に翻訳中です。」

生活と福祉コースを卒業された方は「17年前に入学ですが、ある受験資格に大学での化学系単位8単位以上取得とあり、丁度職場に放送大学の

パンフレットがあり、化学系単位が取得可能と知り入学の動機です。入学してみたら興味を引く科目が多くあり、次々と履修し続け広く浅く学んだ結果6コース卒業となり、この度名誉学生の称号を授与されました。もう一つの目標に面接授業が全国の学習センターにて開設されているため、仕事の関係と折り合いを付けながら訪問することです。すでに13センターを訪問しています。他県での面接授業は座学と現地での視察がある科目を選択していることと、全国各地から参加の学生と交流できることです。選科生ですが2学期は他県での面接授業3か所を予定しています。」

心理と教育コースを卒業された方は「思いのたけは代表挨拶の中で述べましたが、半年ごとに送付される履修に関する冊子が届きますが、それを捲りながらどの科目を選択するかが習慣になっています。以前は学習センターでしか単位認定試験ができませんでしたが、勤務の関係で科目の選択をする制約が、制度が変わりWebで可能となり、私的には良かったです。」

心理と教育コースを卒業された方は「コロナ禍で大会が中止となり暇が出来て思案中のところ、友達から私は放送大学で勉強しているので貴女もどうかと誘われ、履修コースに心理学があり履修したら、そんな考え方もあるのかと気づき、だんだんと深みにはまり、娘から「母さん変わったね、勉強して良かったね」と言われるようになりました。私は編入学なので、それまでに単位を取得していたので勉強がメインとなり、あっという間に気が付けば卒業となりました。人の行動についても自分目線ではなく、その人の理由があることからなのだと推察できる様になり、放送大学が私の人格形成へのチャンスを充てて貰い感謝をしています。」

心理と教育コースを卒業された方は「皆さんのように高い志を持って入学したのではなく、大学に入学したかったのですが金がなく、やむなく高校を卒業したがやはり大学にて教育を受けたいので、学費を稼ぐため県内の企業に就職し、放送大学に入学して興味のある科目を履修して楽しかったです。もともと勉強が好きな人間で、高校も通信教育を受けていたので、通信教育は苦ではなく慣れたもので、ハードルは低くてきっちり4年で卒業できました。」

卒業生との意見交換

・Webで履修可能となりましたが、学生でないと見れないのでしょうか？

—全科目ではなく一部は学生でなくても閲覧できます。

・新しい科目で「宮沢賢治と新しい宇宙」がありますが、印刷教材をネットで購入して観ているのですが、学習センターに注文すると格安で購入できると聞きましたが？

—若干は安く購入できます。

・以前に鳥取学習センターとの交流会で、竹下会長から島根大学と単位互換制度を利用して履修していることが報告されたので、自分も挑戦したいと思い制度を利用しました。若い学生とともに学習するのは放送大学とはまた違い、とても良いことでした。

・名誉学生に対する大学の対応は改善することが必要です。確か昔は無料であったのがいつの間にか入学金と授業料が徴収されて、名誉学生の特典が盾のみです。選科・科目生のみ在籍できないので、せめて入学金は無料とすべきではないでしょうか？

・先輩から聞きましたが、無料の時代に科目登録を沢山申請して、印刷教材を転売した事例があったと聞いていますが？

・名誉学生となり選科で単位を取っても、得ることがあるのか？

—取得単位数の積み重ねしなく、個人の学習であることにしかない。

・例えば200単位ごとに表彰することはどうでしょうか？

・選科で毎年入学金を徴収されるので、10年間は全科生で在学できるので、最後の5コースで足踏みをして、名誉学生にならない選択が最大のメリットではないか。在学中に他コースの科目を多く履修すればメリットとなるのではないか？

—ただ名誉学生への表彰状と副賞の図書カード贈呈は、島根学習センター独自の制度です。大学本部が資金提供をしないとセンター単独では、厳しい状況となります。

・エキスパート認証制度のメリットは何かありますか？また学生でなくなった場合はどうでしょうか？

・学校教育法の中に位置づけられていて、所定の科目を取得すれば認証される制度です。

・エキスパート認証制度は選科や科目履修生でも申請できますか？

—エキスパート認証制度は全科履修生でしか登録はできません。(文責：竹下靖彦)

学位記授与を受けて

2024年度第1学期に学位記を授与されました19名の皆さんに、会報“たら”にご投稿をお願いしましたところ、1名の方からご協力を戴きました。

紙上をお借りして厚くお礼を申し上げます。

卒業を迎えて

松江市 高井 広幸

2024年度9月、やっとのことで社会と産業コースを卒業することができました。苦学生は、8年かけての卒業でした。

大学生活では、学ぶことの面白さを知ることができました。今までは、こんな本やインターネットを調べて、文章を書きあげることはありませんでした。

私は野菜づくりをしており、卒業研究は「持続可能な環境にやさしい野菜づくり経営の考察」についてまとめあげました。私を含む5人の経営者にアンケート及び聞き取り調査を行い、経営・技術について考察を行い、私が今後経営して行くうえで指針となるべく、研究をまとめあげました。

また、第2弾は尾崎ゼミにおいて「食害の無い野菜づくり」を目指して、『環境にやさしい野菜・虫・化学農薬・自然農薬の考察』の研究をまとめ、発表しました。

そして、第3弾で「家族農業が世界を変える・アグロエコロジー（注：自然と共存しながら持続可能な農業を実現することを目指す概念）への変換」に取り組みましたが、テーマが大き過ぎ、まとめることができませんでした。でも、学ぶことが好きになり、永遠のテーマである「食害のない野菜づくり」を目指して、今も島根大学の図書館に通いつづけ、この研究を続けています。そして、最終目標である「アグロエコロジーへの転換」でしょう。

再び学ぶことが許されるなら、大学院でまた「自然と環境コース」に身を置きながら、研究を続けたいと考えています。

社会貢献活動

「さんいん環境キャンペーン 森林保全活動」参加 ⑥

11月9日（土曜日）、松江市東長江町にて「さんいん環境キャンペーン森林保護活動」が快晴の小春日和の中で開催された。当日は協賛企業の社



員、関係団体一般参加の親子連れ、島根同窓会も地域貢献活動の取り組みとして本年も参加をしました。全体の参加者は76名の参加があり、500本のアカマツや100本ヤマザクラを植樹しました。

植林場所は昨年とほぼ同じ「葉子山（はこやま）」でしたが、斜面が急勾



配のため、三瓶山を昇るように慣らしてある新道を昇り、あらかじめ森林組合職員がアカマツ（赤印）とヤマザクラ（ピンクのリボン）を目印に準備してあり、「30cm程度の深さに掘って、一本ずつ真つすぐとなるよう確実に植えて土を戻し足で固く踏みしめて下さい」との説明とともにアカマツかヤマザクラの苗を各自選んで、植林する苗と鋤を渡され、指定場所となっている急斜面を下り、足場を確保して鋤で植え穴を掘り、苗を植えて土を戻しますが、今回は事前に降雨があり竹の根や灌木の根など土壌が柔らかく、例年より余り苦勞することもなく植えることができました。

余った苗は希望者が分担して、更に追加をして1時間30分で事故もなく無事完了となりました。

同窓会は毎回「同窓会旗」を持って参加し、集合写真でしっかりと放送大学同窓会の宣伝を果たしました。



木を植えるプロジェクト 「森林保全活動」に参加して

松江市 北垣 幸久



11月9日、「木を植えるプロジェクト 島根県民参加の森づくり 森林保全活動」に参加。この活動は、山陰中央新報社が展開する「さんいん環境キャンペーン」の一環として、松江市

東長江町にある葉子山（はこやま）を舞台に行われた。当日は晴天に恵まれ、美しい風景を眺めながら作業に取り組むことができた。活動には約76名が参加し、放送大学島根同窓会からは私を含めて参加した。

松江森林組合の方々の指導のもと、アカマツ500本と山桜100本の苗木を植えた。斜面が急で地面も硬く、苗木を植えるための深さ30cmの穴を掘る作業は容易ではなかったが、約1時間30分の作業を参加者全員で協力しながら1本1本丁寧に埋め、心地よい汗を流した。



植樹を終える頃には体力的な疲労も感じたものの、それ以上に充実感があつた。今回植えた苗木がしっかりと根付き、やがて大きな木々に成長してCO₂を吸収し、カーボンニュートラルに貢献してくれることを願っている。また、このような活動が地域の自然環境保全の意識を高める契機となることを期待している。このような貴重な機会を提供して下さった主催者とお誘いいただいた放送大学島根同窓会の関係者の皆様に感謝申し上げたい。今後も自然との触れ合いを大切にしながら、環境保全に寄与できる活動に積極的に参加していきたいと考えている。

社会貢献活動に 取り組む会員探訪⑩



美郷町
田邊和佳子さん

美しい山々に囲まれたその真ん中を中国太郎、江の川が貫流し、町内には2か所の温泉、「含弱放射能・炭酸水素塩泉」の湯抱温泉や、34度の源泉が湯船の足元から沸き上がってくるひなびた秘湯、千原温泉があつてココはその地名通りの、ロマンと美しい鄙（ひが）の郷「美郷町」。

鴨山の盤根し枕ける吾をかも知らにと妹が待ちつつあらむ 柿本人麻呂
人麻呂がつひのいのちを終わりとる鴨山をしも此処と定めむ 斎藤茂吉

歌聖柿本人麻呂の終焉の地を此処として、斎藤茂吉が訪れて詠んだ鴨山がそしてその歌碑が、鴨山公園に在る。

山々の紅葉が漸くに色づいてきた11月16日。夫である田邊裕彦氏と二人三脚で地域貢献活動に取り組まれている田邊和佳子さんを竹下会長、石川副会長、私知野見3人が取材を兼ねて訪問しました。美郷町都賀本郷にある農家民泊「三國屋」での出迎えは、まず山羊たちが歓迎挨拶をするかの如く、柵に近寄ってきました。



「三國屋」と看板が掲げてある玄関に入り、昔なつかしい板敷の上がり口で靴をぬいで、いろいろの火を囲みながら早速取材をさせていただく。そして拝見させていただいたのが、大学生を対象にオンライン講義される資料でした。

「CONCEPT 人は面白くて楽しいところに集まる。地域で儲かる観光の仕組みと住民が楽しく、そして人が集まる、定住したくなる面白い田舎造りを目指す！



濁酒（6次産業化）と、田舎ツーリズムを核とした地域活性化（地域・産業を起こし）、※地域活性化とは、自分が楽しく、地域ややってくる人達に楽しんでもらうこと。そんな地域づくりが、定住や産業振興に繋がる。」そしてまた「課題・今後取り組むこと」という資料には「邑川の事業展開が、中山間地域のモデル事例として波及し、地域の活性化に貢献することを切に願います！」と書かれていました。

——山羊が出迎えてくれましたが、飼育されているのですか。

田邊一周辺の農地は夏の除草作業が大変で、山羊が手伝ってくれます。旧JR.三江線跡地の草刈りや学校、福祉施設への訪問など16頭の山羊が活躍しています。

——大学院を目指したきっかけと修士論文のテーマについて伺います。



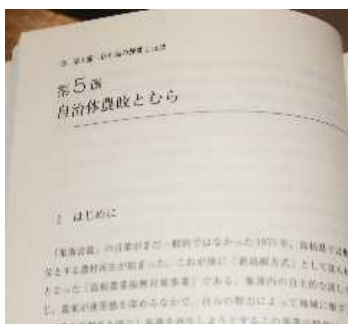
囲炉裏を囲んで取材

田邊一先生での専攻は比較言語学でしたが、ヨーロッパの条件不利地域政策に興味を持ち、公務員になってからも関係資料を読んでいました。指導教官は当時、東大農学部助教授だった小田切徳美先生でした（現在明治大学大学院教授）農山村再生論や地域ガバナンス論についてお話を聞き、「島根県に着目したら」との助言もいただいたので、これまでの研究の集大成として、論文テーマを「条件不利地域の振興政策に関する研究—新島根方式の意義と教訓—」としました。当時はまだオンライン講義形式がなく、約1年間、週末上京して東大農学部キャンパスに通っていました。小田切研究室の若い研究者の方々が農村政策の政治経済的分析について毎回夜遅くまで議論し、その内容を1冊の本「現代のむら—むら論と日本社会の展望—」（農文協）にまとめられ、私も第5章を担当しました。



（此処からは夫の裕彦

さんにも加わっていたいただき、みんなでザックバランにおしゃべりをしながら、楽しい時間となった。落ち着いたテンポのピアノ曲BGMが流れるなか、気さくなお話のなかからいろいろと、伺うことができた）。



——民泊「三國屋」を此処、美郷町に創ろうと思われた動機は何でしたか。



田邊(夫) —此処が私の生れた故郷だったからです。正直、田舎を出ようと思っていました。現役時代に職員のみなさんにUIターンを推奨しようかと話していた手前、退職をしてこちらへ帰り起業したわけです。第二の人生はプレーヤーとして生きる道を選択しました。

それで何で私が濁酒（どぶろく）をやろうかと思ったのは、現役当時浜田の弥栄村の「どぶろく特区」という先例を知っており、地域活性化の手

法として大変魅力を感じたこと、また美郷町は県内で2番目の「どぶろく特区」ということもあり、制度を活用してどぶろく製造を始めました。

「どぶろく特区」の条件として、自分で栽培したお米で濁酒を造り、自らの民泊か飲食店で提供するというのがありますので、ある程度時間に自由のきく民泊を選びました。

——私が子供の頃、戦後ですが村で闇の濁酒を造っていて、ある年に税務署員が来るということで「税務署が来たゾー」と伝令が飛び、造ってる場所が便所の中、石塔の中、竹林の中で濁酒を造る者がいました。私5～6歳の頃に濁酒の上澄み酒を静に汲みを掬い取りましたが、この上澄み酒が実に美味しいものでした。戦後の良き時代もありました。

——ところで此処大和町の魅力というのは何でしょうか



田邊(夫) —昔はこの地域にも映画館やパチンコ店などもあり大変賑やかでしたが、すっかりさびれてしまい、楽しいところがなくなったので、なら自分が楽しいところを作ろうかという気持ちがありましたね。楽しいことをやれば、他の人が放っておかないですし、行政なんか巻き込んでやれば、全国からでも人はやって来ると思っているんです。（「地域活性化とは、自分が楽しく、地域ややってくる人達に楽しんでもらうこと。そんな地域づくりが、定住や産業振興に繋がる」）。

——田邊さんのそうした活動の取り組みが以前、山陰中央の新聞で紹介されました。台湾への濁酒輸出もチャレンジされたのですね。三國屋の特徴は何でしょうか。

田邊(夫) —ホームページを立ち上げていろいろ紹介しています。美郷町で起業したのは、私のふるさとであること、友人や仲間がいること、現在も伝統文化や自然を多く継承していること、中国地方で最も雄大な河川、江の川が町を環流し、山と川の恵みがもたらす特産品が豊富にあるためです。また、人情豊かで、住民がいきいきと暮らしているこの地域を多くの方に知ってもらい、訪れていただきたいとの思いから、築90年の農家をゆっくりと泊まれるよう改修（古民家再生）した「三國屋」や、若い方にも楽しんでもらえる多目的リバーサイドハウス「ファーム Daiwa」を造りました。

——濁酒「^{おうせん}邑川」それから「三國屋」の、名前の由来を教えてください。

田邊(夫) — 「邑川」というのは、邑智郡を流れる江の川に由来します。それと今は亡き親父が水



墨画を嗜んでおり、その雅号が「——濁酒「^{おうせん}邑川」それから「三國屋」の、名前」だったので、この二つから濁酒「^{おうせん}邑川」としました。また「三國屋」についてはこの家の主となった私がこの家の三代目のオーナーということ、また私の本家が「三國屋」という屋号だった(本家「三國屋」はもうありません)のでそれを再興しようという思いもあつてのことですね。

——島根学習センターの出口所長は「たたら21号」に「現代のシャーマン」というタイトル



で、次のようなことを書いておられました。「現代のシャーマンとも言える放送大学卒業生はどのように力を活用できるだろうか・・・同じように学ぶとは、自らが変化しそれまでとは異なる存在になるということである」と書かれていました、更に「しかしシャーマンがシャーマンであるのは力を活用するからである」と述べられている。すなわちこれは、「学んだだけではダメであり、学んだことを、自ら実践するということが大切である」と云われていました。

——本日ご多忙の中お話を聞かせていただきありがとうございます。台湾での販路開拓も成功されることを願っています。本日は長時間取材にご協力いただきありがとうございました。

取材を終えて

おだやかに広がる此処ロマンと美しい鄙の郷「美郷町」で地域貢献活動と、それに挑戦し続けながら明るい美郷町の明日を目指す田邊裕彦・和佳子さんご夫婦は、まさしく「希望のシャーマン」であった。私達はそんな田邊さんご夫婦を心から応援いたします。

いろいろの火を囲みながら自家製濁酒「^{おうせん}邑川」(三國屋の敷地内には、「どぶろく特区免許」を受けて造られた「濁酒蔵元^{おうせん}邑川」がある)をいただき、

鮎の塩焼き・美郷町ブランド「おおち山くじら」のシシ鍋に舌鼓をうちながら、(なんと美味かったことヨ!)先日、11月7日には二十四節季の立冬を迎えた静かな「里の秋」の、夜の更けるまで話に花を咲かせました。そしていりに残る炭火にシッカリと灰をかけて、いろいろの埋火が温く温くとする隣の部屋で、安らぎに満ちた民泊「三國屋」の床につきました。

磨ガラス窓の障子がボンヤリと明るくなり、穏やかな目覚めの朝だった。磨ガラス窓に描かれた笹竹の葉の紋様が薄明りに浮かびあがり、いろいろ間の引き戸から差し込む光が、新しい朝が来たことを教えている。

優しくてゆったりとした時間が流れ、ゆったりとした時間が過ぎて行く。

いろいろ端に座って朝食をいただきながらこの後、もう一棟の宿泊施設、「ファーム daiwa」へ案内していただくという話を聞いた。

建設会社の社屋をそのまま買いと



って、宿泊可能の内装としたココには、宿泊室や研修室やらがあり、充実したものであった。

今回初めて一泊という日程での取材でしたが、山青く水清らかな「山紫水明」、豊かな自然満載、そして懐かしいふるさとの匂いがいっぱい的美郷町に、皆さんもぜひ出かけてみてください。

(文責：知野見)

- 農家民泊「三國屋」の住所
島根県邑智郡美郷町都賀本郷97番地
- 電話番号は0855-74-6122
- URLは <https://www.oosen.jp>



三國屋玄関前で



玄関先から見た集落風景

地区会員の近況報告

(西部地域 ②)

執筆累計者数 37・38人

卒業後の私 学びの継続



邑南町 品川隆博

放送大学大学院を修業して7年経ちますが、島根県立大学大学院において学びを継続し、地域づくり活動を行っています。

放送大学での学びのきっかけは、定年退職してUターンした邑南町布施地域の過疎化が進み、高齢者を取り巻く環境が厳しくなっており、集落機能の維持や高齢者の福祉についての不安を感じたことからです。

私は、学部の「生活と福祉コース」を選択し、福祉関係の知識を習得することで地域の実態が分かり始め、地域づくり活動組織の地域マネージャーとして地域課題解決に関わることになりました。そして、卒業研究の「過疎農山村地域での地域福祉活動の現状と今後の課題」を選択しました。大学では田城孝雄先生のゼミに加わり、研究に関する意見・情報交換し、先生からは、「品川さんの研究手法は、研究者自身が研究フィールドで活動を行い、地域の変化を調べるアクションリサーチであり、これから確立されていくものです」との指導を受け、さらに修士課程に進みました。

布施地域での現在の人口は152人です。Uターンした平成18年から100人以上は減少している中でも、地域づくり活動を継続し地域資源を有効活用して住民を巻き込んでいます。その一つの例は、空き家の納屋を加工場に改修し、住民への夕食弁当を作り配達し、単身高齢者、夫婦高齢者との会話から困りごとを聞くなど見守り支援につなげています。

学びの継続は、知識の習得とともに、蜻蛉の眼のごとく複眼的な視点による思考・観察力を身につけることができ、過疎農山村での地域づくりに活かすことができます。



卒業後の私

江津市 山縣慶子



寒中お見舞い申し上げます。寒い日が続いていますが、お元気ですか。皆さまお変わりなく新年を迎えられたとことと心よりお喜び申し上げます。

最近私は、お開運にも興味があり、ユーチューブを観たりしながら、神社参拝や開運行動に日々努めています。暖かくなって桜が咲いたら、ぜひお花見をしたいですね。それまで風邪などひかぬよう、皆様お身体に気を付けて、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

さて私は、この度幼保特例制度によって幼稚園教諭一種免許を取得することができました。ひとえに皆さまのお蔭さまと感謝しています。私は幼少のころから四年大学卒業する、病院で働く人になりたい、子供に携わる仕事をしたいなど夢目標を持っていました。どうしても諦めずコツコツと努力すること、目の前のできごとと向き合って積極的にチャレンジすることに邁進してきました。私自身、負けず嫌いの頑張り屋のところもよかったのかもしれませんが、よい先生や仲間に出会えたのもとても重要なことです。

これからはより次世代に貢献する青少年育成に携われる私に感謝し、新たな目標に向けて日々の行動や思いにも目を向け、心身ともにしっかり休む時間をつくり、体調を万全に整えて何事にも挑戦していきたいと思います。



連載企画 ③

「ぼんちゃんファーム奮闘記」①

松江市 高井広幸



私は、ぼんちゃんファームを経営しています。しかしながら野菜づくりだけでは飯が食べて行けず、半農半Xでの野菜づくりです。

化学農薬、化学肥料を使用しない環境にやさしい野菜づくりをしています。私が皆さんと違うところは、シイタケの廃菌床を使用して環境にやさしい野菜づくりをしているこ

とでしょうか。

「菌床しいたけ」は、木材のチップを袋に入れて固め、そこにシイタケ菌を植え付けてしいたけを生産します。固める時にフスマ、ヌカ等の栄養素を入れます。



シイタケの栽培菌床

3か月くらいすると役目を終え、廃棄されます。

その役目を終えた廃菌床を頂き、畑に広げて還元させます。この廃菌床にはミミズが多く発生して、そのミミズにより畑



冬場の野菜

を耕して貰います。また、廃菌床の木材のチップが土と混ざり、土に隙間ができ野菜が根を張る環境が良好になります。もちろん肥料分も多少残されており、肥料の減量にもつながります。



セルトレイに種まき

種は、根菜以外はセルトレイに蒔き、集中管理をしています。近場で集中管理することにより、発芽の状況、その後の育苗管理をコントロールすることができます。寒い時の発芽は、発芽機により発芽させ、その後育苗管理して早期の出荷を目指します。今年はこのために落ち葉を利用して温床のフレームを作ろうとしています。

栽培は、不耕起栽培で最初に畝を立て、排水しますが、次作から畝は残し苗を植えるところだけを移植ゴテ等



米のとぎ汁根元に草マルチ

でほぐし、肥料を入れて苗を植え付けて行きます。苗を植えたら、すぐに寒冷紗等で被覆して、害虫の侵入を防止します。しかしそれでも多少は穴が開きます。具体的にはヨトウムシ、ハマシ、アブラムシ、アオムシ等が穴を開けたり、汁を吸って野菜の品質を低下させます。

本来は、畑に毎日行き注意深く観察し、発見したら捕獲駆除する必要がありますのですが、今は生活して行くのが一杯で余裕のない状態にあり、失敗が続きます。農薬を使えば立派なものになるのですが、私の畑では使えません。私は木酢にトウガ

ラシ(代わりにペッパーソースを水で10倍に薄めてもの)を使用して退治しています。しかしこれは一時の物です。

私は、島根県の環境宣言で「農薬や化学肥料を使用しない、安心・安全な野菜の提供を目指します。」と宣言して以来、コンパニオンプランツ、バンカープランツ・連作障害等を配慮して、自然農薬を学びながら環境にやさしい野菜づくりを続けています。

また、肥料には廃菌床はもとよりその原液、くずシイタケの不織水、レストラン、料理館等で出た(昆布・カツオブシ、イリコ)等の粉末に油粕、ヌカ、骨粉等を加えたボカシ肥等を利用しています。私の畑にはミミズが沢山いることもあり、イノシシの被害もあります。

いま、借地しているオーナーから、サツマイモ、カボチャの有機JAS取得を依頼されています。私自身では、ハウレンソウとニンジンの有機JAS取得を目指したいと考えています。

サラダでも食べられる安心・安全な環境にやさしい野菜づくりを目指して、ぼんちゃんファームの野菜作りは続きます。

~同窓会からのお知らせ~



新会員のご紹介

(2024年7月~2025年12月)

2024年度第1学期卒業

◎社会と産業コース 高井広幸さん(松江市)

※ご入会有難うございました

※会報および総会資料等の受け取り方法の変更を検討中です!!

郵送料金の値上げや電子化、ペーパーレス化に伴い、会報や総会資料等お届けする方法を選ぶよう柔軟に変更すべく受け取り方法についてただいま検討中です。

放送大学 学生サークル

『古文書を読む会』

代表 竹下靖彦

古文書を読む会は、講師による解説で、「松江藩郡奉行所文書」寛永3年(1750)頃から明治16年(1883)までの129の民事訴訟案件の記録が現存し、特長は訴訟の始まりから解決までの文書は全国的に貴重な史料です。

現在「田部長右衛門山論御裁許之儀願立候書面」から『鑪製鉄に使用する朝原村の腰林からの焼炭の買上げに伴う田部家との第1次、第2次の争い』から開始し、19回目にわたり文書の写し原文(控え)と講師の「読み下し文」と照らして読んでいるため、原文だけでは難しく敬遠気味ですが、読み下し文もありますので、初めての方にも案外容易に楽しめます。

現在は郡奉行に残存している文書から、当時の朝原村庄屋勝部家に残されていた「村方文書」で、朝原村内の百姓たちが役人と藩鉄師である田邊家と鉄山の権利を巡る争論について、百姓たち個人ごとに返書に対する村側の主張に同意を求める苦悩を、細やかに記載されており、双方の主張を合わせて解説できます。

古文書を読む会は、高齢者が多数のため体調不良や死亡のため会員が減少しており、学生団体維持のため会員の皆さんに参加をお願いする次第です。

会費は月額500円を6ヶ月分(3,000円)前納となります。詳細は下記の代表竹下までお問い合わせください。

電話：080-3056-0487 まで

今後の開催日程(原則第三水曜日)

第20回

2月19日(第三水) 13:30~15:30

第21回

3月19日(第三水) 13:30~15:30



◆同窓会の活動日誌◆

(2024年7月~2024年12月)

【7月度】

5日(金)会報23号印刷所へ脱稿
11日(木)“たたら”発送準備作業
16日(火)“たたら”発送(郵便局)
24日(水)古文書を読む会
28日(日)連合会 Zoom ホスト研究会

【8月度】

21日(水)古文書を読む会
23日(金)1学期学位記授与式打合せ
26日(日)第1回役員会 (Zoom)

【9月度】

2日(月)総会記念講演講師打ち合わせ
9日(月)感謝状贈呈打ち合わせ
18日(水)古文書を読む会
27日(菌)卒業生向け同窓会入会資料作成
28日(土)卒業を祝う会会場準備
29日(日)学位記授与式
29日(日)卒業を祝う会
29日(日)アカデミックガウン撮影会

【10月度】

5日(土)植林ボランティア参加案内発送
16日(水)古文書を読む会
24日(木)会報原稿依頼状発送

【11月度】

9日(土)植林ボランティア参加
16日(土)会報用取材活動
20日(水)古文書を読む会
21日(木)会報第24号編集作業開始
23日(土)連合会助成金申請審査(Zoom)

【12月度】

10日(火)会報たたら24号編集作業
11日(水)会報たたら24号編集作業
18日(水)古文書を読む会
19日(木)会報たたら24号編集作業
20日(金)会報たたら24号編集作業
24日(火)会報たたら24号編集作業
26日(木)会報たたら24号校正作業

同窓会 当面の行事案内

2024年度市民公開講座・修士論文発表開催のご案内

日時 2025年2月8日(土)13:00~15:00 (共催:島根同窓会)

会場 島根学習センター 3階「第1講義室」

① 公開講演会 13:00~14:00

演題 「老化期の転倒予防について—高齢者から幸齢者への第1歩—」

講師 岡田 修一氏(放送大学兵庫学習センター所長、神戸大学名誉教授)

② 論文発表会 14:20~15:00

テーマ「職業音楽療法士のコンピテンシー」

～コンピテンシーモデルの開発と評価による検討～

2024年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2025年3月30日(日)10:40~11:40 (共催:島根同窓会)

会場 島根学習センター 3階「第1講義室」(予定)

対象者 2024年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん

※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2024年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2025年3月30日(日)11:40~13:20 (主催:島根学習センター)

会場 島根学習センター 4階「第2講義室」

対象者 2024年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん

※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

島根同窓会 第13回通常総会&市民公開講座開催のご案内

日時 2025年5月10日(土)13:30~16:30

会場 島根学習センター 4階「第1講義室」(予定)

① 市民公開講座 13:30~15:00

テーマ・講師は現在交渉中

② 定時総会 15:00~16:00

総会議案書は後日お届けします

～編集後記～

激動の2025年が明け、これまで30年間日本の政治は変わらないと失望感に苛まれていたが、昨年の総選挙で驕る自民・公明党が国民の若しかしたら代えることができるかもとの期待で過半数割れを求めたことで、本来の国会論戦が実現したことで、国会中継が安易なドラマ放送より面白くなりました。いよいよ政権交代を叫ぶ野党の力量が試される。しかしこの機に乗じて政権与党にすり寄る醜い野党の姿が現れるのが過去の歴史である。

今年の課題は、自ら何が正しく、正しくないのかを俯瞰して判断できる思考力を磨きたい。(靖)